

会 議 記 録

次のとおり会議記録を作成します。

会 議 名	令和４年度 第１回高松市地球温暖化対策実行計画推進協議会
開 催 日 時	令和４年１１月７日（月） １５時３０分 ～ １６時２０分
開 催 場 所	Ｗｅｂ会議方式及び高松市役所本庁舎３階 ３２会議室
議 題	(１)高松市地球温暖化対策実行計画の令和３年度取組状況について (２)エコシティたかまつ環境マネジメントシステムの 令和３年度取組状況について (３)エコシティたかまつ環境マネジメントシステムの改定の 方向性について
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上 記 理 由	
出席委員	１５人 嘉門会長、白木副会長、生嶋委員、石川昌委員、杉ノ内委員、高橋委員、 高畑委員、寺門委員、土手委員、西村委員、橋田委員、福家委員、 藤田委員、増田委員、溝渕委員
欠席委員	３人
傍 聴 者	－
担 当 課 及 び 連 絡 先	ゼロカーボンシティ推進課 (TEL087-839-2393)

審議経過及び審議結果
協議会を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。 次のとおり、協議会を開催した。 (１)高松市地球温暖化対策実行計画の令和３年度取組状況について (事務局より説明) 以後審議 (委員) 市が取り組んでいる、脱炭素型ライフスタイル推進リーダーの養成状況はどうなっているか。 (事務局) 現在（令和４年１１月７日時点）のリーダー登録数は、２０人と２団体である。 今年度８月に職員を中心として第１回リーダー養成講座を開催した。なお、今年度２回目の講座を行い、そこでも２５人の講座の参加をいただいた。本年３回目、４回目と引き続き講座の開催を予定している。脱炭素型ライフスタイル推進リーダーへの登録を積極的に働きかけてまいりたい。

審議経過及び審議結果

(委員)

資料 6 頁の地球温暖化対策実行計画進行管理指標の令和 3 年度進捗状況のゼロカーボンシティ認知度について、令和 6 年度の目標値の設定基準を教えてください。

(事務局)

地球温暖化対策実行計画の目標値として、令和 1 2 年度に 7 0 % と設定しており、基準年から正比例して増えていくことを想定すると、令和 6 年度では目標値が 3 0 % となる。令和 1 2 年度に 7 0 % という目標値が高いか低いかは、議論の余地があるが、序盤の数値としては高いが、認知度が高まってくる程、伸び率は頭打ちになってくるのではないかと想定している。

(委員)

現状よりも目標が低いというのはどうなのか。今後の目標として 7 0 % を引き上げていく議論等はされるのか。

(会長)

管理指標の認知の目標として、令和 6 年度に 3 0 % の設定自体おかしい。数年後には 1 0 0 % が前提のため見直していただきたい。

(事務局)

検討したいと思う。

見直しのタイミングについては、改めてこの協議会で諮らせていただく。

(会長)

目標の値を協議会で議論をしてはどうか。御検討いただければと思う。

(副会長)

事務局任せでなく、皆様の御意見を事務局で取りまとめていただけたらと思う。

ただし、2 ～ 3 年様子を見ないと、アンケートというのは変動する。最終 1 0 0 % みんなが認知している状況が望ましい。また、認知度が上がることで、他の項目が効果的に高くなるのか関連性も調査する必要がある。認知度だけに拘りすぎず、全体のバランスを見なければならない。

(委員)

同じく地球温暖化対策実行計画進行管理指標の環境学習講座参加者数だが、令和 2 年度 3 年度の実績はコロナ禍での実績にも関わらず、令和 6 年度の目標が低いことが気になる。もっと目標値を上げて良いのではないかと。また、この環境学習講座参加者数とは、高松市主体の開催講座なのか、団体が行う講座も含むのか。

審議経過及び審議結果

(事務局)

環境局が所管する環境学習である。中には登録団体が講師として御協力いただいている講座も含まれるが、本市が謝金を支払ったり、本市が受付を行ったりしたコミュニティセンターや学校で開催している環境学習に参加した人数の積み上げである。目標値については、先程の目標値と同様、委員の皆様の御意見をいただきながら、推移を検証し、必要に応じて修正してまいりたい。

(副会長)

毎年、2,000人という方が参加するという事自体すごい事だと思う。最終目標を累積値にするのも説明しやすいのではないかな。毎回2,000人を維持するのは大変ではないかな。

(委員)

認知度の議論の際にあがった最終目標値が、資料6頁の表からは把握できないので、各項目の最終の目標値が読み取れるようにしてほしい。

(2)エコシティたかまつ環境マネジメントシステムの令和3年度取組状況について

(事務局より説明)

以後審議

(委員)

3頁の温室効果ガスとは電気由来の排出なのか。

(事務局)

高松市の事務事業で使用するエネルギーは、電力も含めて、ガス、ガソリン、その他様々なエネルギーの使用量。或いは、廃棄物処理としてごみの焼却を行う際に排出されるCO2も合算して算出している。電気が4～5割程度を占めることが多い。その他の要素としては、廃棄物の焼却に伴うCO2排出が占める割合が多い。

(委員)

5頁の電気の使用量が2017年度から2018年度にかけて大きな減少があるが、特殊要因があったのか。

(事務局)

以前は高松市の事業として上水道の事業を行っていたが、2018年度から香川県広域水道企業団が発足され、高松市の事業から切り離されたことから大きな削減量となった。

(委員)

6頁の今後の取組として、太陽光発電の設置とあるが、蓄電池の設置の予定はあるのか。また、水素自動車の公用車への導入は計画しているのか。

審議経過及び審議結果

(事務局)

脱炭素の達成に向けて、蓄電池の導入は大きな課題である。しかし、事業用の蓄電池の設置は費用の問題でできておらず、財政との相談になる。蓄電池の普及は重要であり、検討課題としては認識している。

公用車について、電気自動車は、目標を高く設定し計画的な導入を図っていきたい。水素自動車は価格が相当高い。市役所での使用が市民からの御批判を受ける可能性もあり、市民からの御理解も含めて、コストと必要性を比較検討まいりたい。

(会長)

7 頁の用紙の使用量について、令和 2 年度にかなり増えているが、事務局の説明にあったマイナンバーカードの普及のため増えたという理由がよく分からない。

(事務局)

マイナンバーカードの事務量増加の前に申しあげた、新型コロナウイルスの影響で、病院や保健所の業務が相当増えたことに伴う影響が大きいと分析している。

(会長)

事務量の増加に伴い用紙の使用を増やすのではなく、DX の推進に苦心していただきたい。

(3) エコシティたかまつ環境マネジメントシステムの改定の方角性について

(事務局より説明)

以後審議

(会長)

蓄電池と地中熱という新しい技術も市で積極的に取り入れるように検討いただければと思う。

(事務局)

蓄電池は非常に重要な要素だと認識している。地中熱に関しても昨年度の地球温暖化対策実行計画推進協議会の中でも議論がされ、一定の有効性ありと認識している。地中熱の利用を引続き検討して参りたい。

(委員)

環境の取組には費用がかかる。脱炭素についての取組と費用についての方角性について教えていただきたい。

(事務局)

脱炭素に向けて費用が発生するという認識ではある。ただ、現在は企業にとって脱炭素は成長戦略でもある。

また、環境省或いは経済産業省の様々な補助金の事業も存在する。

審議経過及び審議結果

それらを丁寧な周知でより良い企業経営や社会全体の脱炭素に貢献できることを訴えかけていきたい。

(委員)

5 頁の温室効果ガスの削減目標値をもっと大胆に高く掲げるべきではないか。

(副会長)

目標が挑戦的なので、協議会としても挑戦的にしなければいけないという御意見かと思う。

これは私個人の意見だが、GX（グリーントランスインフォメーション）や、ESG という企業の取組等がある。この協議会がそういうことも議論できる場になれば良いと考える。

最後に会長の御意見をお聞きしたい。

(会長)

目標値の設定は不可能なものではなく、実現できる指標にするべき。日本は2050年にゼロカーボンを目指すということなので、そこから逆算してシナリオを作っていきたい。

(副会長)

それでは本日の会議はこれをもって終了する。